

1. 評価報告概要表

作成日 2010年4月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070202005
法人名	社会福祉法人タービュランス福祉会
事業所名	グループホーム根小屋
所在地	高崎市根小屋町1636-7 (電話) 027-320-1051

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年4月21日

【情報提供票より】(平成22年4月4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人 非常勤 3人 常勤換算 6.5人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費300円/日・テレビ代100円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	又は、1日900円			

(4)利用者の概要(4月4日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.5歳	最低	80歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡本内科クリニック・サンピエール病院 他
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

室内にすることが多いと寒さや暑さを実感する機会が少なく、そのため時期がわからなくなるがあるが、当ホームは人間の持っている「皮膚感覚」に着目して、生活に「季節感」を多く取り入れた支援を積極的に行っている。一例では、なるべく外気を取り入れ室内の温度を調整する、様々な花の開花に合わせて臨機応変に外出する、節句等の季節行事に合わせた制作物を作り展示するといったことに加え、その時とった利用者の写真を折にふれ思い出してもらえよう季節の流れに沿って壁に見やすく飾っている。また、利用者のその時の希望に対応できるよう食事メニューの変更や飲酒もできるように行っている。このような利用者の感覚を重視した様々な取り組みは、管理者が中心となり職員が法人研修も含めた各種勉強会等に積極的に参加し最良なケアを模索しながら日々取り組んでいることが、成果として結実されている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受けて、「同業者との交流」では交換研修を実施し、「防災対策」では消防署の指導の下に地域の方も参加して訓練を行う等具体的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、パートも含めたすべての職員が自己評価票に記入し、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に一度開催され、ホームから入居状況等の近況報告を行い、参加者である区長や民生委員、近隣者や家族から季節ごとの花見場所や地域のイベント等の情報提供があったり、避難訓練への近隣者の参加呼びかけをしたり、話を出し合っってホームのサービス向上に繋げている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年4回写真付きのホーム便りを家族に渡し、暮らしぶりや行事の様子を伝えている。また、意見箱の設置や苦情相談担当者の名前・連絡先を手書きで玄関先にわかりやすく示している。管理者は、家族の意見をより引き出すため、タイミングを見極めソファにかけて話を伺い傾聴して様々な意見(苦情)に触れられるよう工夫をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のどんどん焼きや廃品回収に利用者と一緒に参加し、地域の方と顔なじみになり声をかけていただいたり、野菜を分けもらう等の交流がある。また、地区の新年会に管理者自ら参加し、ホームを理解してもらえるよう努めており、地域の方から介護についての相談を受ける機会がみられている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他に、昨年1月に管理者が職員から意見を募り、「利用者一人一人の価値観や生活観、人生観また季節感を取り入れ、地域との良好な関係を構築する」といった内容のホームの実施目標・方針を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人と事業所の理念を掲げ、職員が意識化できるようにタイムカード設置部に置いている。また、管理者は月2回の会議で利用者の価値観を重視したケアが実践できているか、生活の中に季節感をどのように取り入れたらよいか、職員とともに検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のどんどん焼きや廃品回収に利用者と一緒に参加し、地域の方と顔なじみになり声をかけていただいたり、野菜を分けてもらう等の交流がある。また、地区の新年会に管理者自ら参加しホームを理解してもらえるよう努めており、地域の方から介護についての相談を受ける機会もみられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はパートも含めたすべての職員が自己評価票に記入し、管理者がまとめている。また、前回の評価結果を受けて、「同業者との交流」では交換研修を実施し、「防災対策」では消防署の指導の下に地域の方も参加して訓練を行う等具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に一度開催され、ホームから入居状況等の近況報告を行い、参加者である区長や民生委員、近隣者や家族から季節ごとの花見場所や地域のイベント等の情報提供があったり、避難訓練への近隣者の参加呼びかけをしたり、話を出し合ってホームのサービス向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には無断で出てしまう利用者の対応について等対応困難事例やひやりハット、事故報告を行い、それぞれ指導や助言をもらって検討や勉強を重ねている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回写真付きのホーム便りを家族に渡し、暮らしぶりや行事の様子を伝えている。また、金銭管理は一人ひとりが購入した領収書をノートに貼付し収支を記録して、家族に確認してもらおうと共に、希望があればコピーして渡している。面会時にはそれぞれの家族に利用者の状況や健康状態を伝えているおり、面会の少ない場合は電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情受付担当者の名前・連絡先を手書きで玄関先にわかりやすく示している。また、管理者は家族の意見を引き出すためタイミングを見極め、ソファールにかけて話を伺い傾聴して、様々な意見(苦情)を引き出すよう工夫をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は母体法人が実施するが、ホームの特色を理解して最小限に行っている。昨年は体調不良で退職した職員がいるが、利用者の前で伝え、利用者に理解されるよう都度説明している。また、管理者は職員の間人関係にさりげなく気を配り、業務や意欲に支障がないか配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人内外それぞれ参加しており、法人内は年2回感染症や身体拘束、虐待等の各委員会が開催して、職員が参加している。また、外部研修も経験に応じた適切な研修へ参加を促し、職員も自ら休日を利用して希望の研修に参加している。研修後は報告書の提出と内容の伝達を行い、資料の供覧ができるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、経験年数のある他事業所へ積極的に出向き見学して、自身のホームに取り入れられる工夫点やホームの取り組み内容を相談する等してアドバイスをもらったり、励まされることがある。また、レベルアップの交換研修に参加し、その結果を情報交換しサービス向上に力を注ぐ取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には見学に来ていただけない場合にも、入居前に必ず管理者が本人に会う姿勢をとっている。また、家族に事業所を見学してもらい、入居後の一週間ほどは利用者の心身状況を見極め、それに応じて面 회数をできるだけ多くしてもらおう等協力を求めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが ら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から戦争体験・子育て苦労話などの当時大変だった話を聞いて、共感できることが沢山あり学んでいる。また、畑仕事、干し柿作り、調理を一緒に行い、料理では利用者が特に得意な手巻き寿司を披露するなど支えあうエピソードも多く関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴のアセスメントで人柄を理解し、日常生活の中でなるべく向き合っ て話をする機会を持ち、様々な思いの表出を促し表情等からその人の本来の気持ちや思いを捉えることができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となり医療、食事、排泄、入浴、清潔等の情報を集め、管理者の助言を加え、その内容に基づいてケアマネージャーが介護計画を作成している。また、月に2回の担当職員会議で他の職員の意見も出し合っている。家族の意見を聞き、計画内容を説明して承認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、6ヶ月に1回行っている。今後は、3ヶ月を目標に見直しを行っていく方針である。計画内容が適切かや実施されているかを細かく記録し、日々の変化を掴んでいる。また、著しく変化の見られる利用者の計画は管理者が中心となり情報収集し、職員に内容を確認して計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の付き添いが困難な場合の受診やその送迎を支援している。また、利用者に自宅の様子が気になると言われれば一緒に伺い、家族と話ができるように対応したり、様々な花が開花する時期は利用者の急な希望にも外出したりと柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に受診する人も、ホームの協力医が月2回の往診しており、そちらを利用する人もいる。利用者ごとの医療用ノート他、業務日誌や申し送りノートにも記録し、家族への報告や職員の確認に落ちがないように工夫している。また、家族の付き添いで受診した場合も状況の連絡を受けている。その他専門医の受診も対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在利用者の健康状態が安定していることもあり、ホームとしてできること、できないことを明確にしておくことの必要性は感じているが、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階での説明は実施していない。ホームの体制としては、立ち上がりや座位が困難な場合対応が難しくなると想定している。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームの方針を明確にし、説明する時期やタイミングをなるべく早く設定して、家族、職員も含めた全員で方針を共有できるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴等一対一でケアする場面では、相手の立場になり職員はずっと側にいない配慮をしている。また、名前の呼び方に注意したり、命令的な口調は避けるよう努めている。個人記録は事務所で保管しており、生活記録は記録後、畳コーナーの押し入れにしまい管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの好きな事ややり方を優先した生活を重視しており、一番風呂が好きな方には勧めてみたり、編み物が好きな方は家族にプレゼントする制作物を時間を問わず時間をかけてもらったりと、思い思いに過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の利用者中心に野菜の下ごしらえや洗い物を手伝ってもらっている。また、焼きそば、まんじゅう、クレープ、クッキーなど利用者と一緒に作り、できたてを食べる機会を作っている。太巻き寿司作りでは、男性利用者も一緒に作り食べることが多い。職員は、必ず一名は利用者と一緒に食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間を決めずに毎日、午前午後と入浴を実施している。入浴を楽しめる工夫として「菖蒲湯」や「ゆず湯」等も取り入れている。一番風呂が好きな方には、早い入浴を勧める等好みを把握して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の様子を見ながら、他の利用者との兼ね合いも考えて役割を依頼するようにしている。野菜作りの経験がある方から畑の作り方の指導を受けたり、女性は調理、洗濯物たたみ、男性は掃除モップかけ、また季節感のもの作りをして役割を支援している。また、春先や夏場は庭で花見やバーベキューを行って、生活の中の楽しみごとを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活の中の季節感を大切にしており、様々な花の開花時期に合わせて多く外出したり、その日咲いている花の話題が出たので出かけるといった外出もある。また、花火見物に出かけたり、デパートが好きな方と市の中心地へ出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出たい願望の利用者もいるが、洗い物をお願いしたり、気を紛らわせるなどして利用者の行動パターンを把握して対処している。戸外へ出ても止めるのではなく、演出して一緒に行動するなど、職員で施錠しないミーティングを行い施錠をしない取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の指導と全員が経験し動けるよう自衛の避難訓練を、年2回以上行っている。夜間・昼間想定で定期的実施している。消火器の使用法・夜間の避難方法・見守り役割の指導を受けている。防火設備、夜間緊急呼び出し装置の取り扱いなどを学び、近隣の協力と理解は得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立により、栄養バランスを管理している。また、食事量は毎食後に記録し、水分量は医師の指示や日頃から飲水量の少なめの方のチェックを行っている。基本的には普通食で食べやすいよう調理されており、咀嚼や嚥下が困難な利用者には副食を刻んで提供する等一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂の天井は高く、光彩が十分取り入れられているため開放的である。また、食堂横に畳コーナーがあり、数人で作業をしたり食後寛いだりすることができる。居室への廊下には四季を感じられるように写真やその月の制作物で装飾され、工夫された配置になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、その利用者が使い慣れたベッドやタンスを持ち込んでいる。また、壁には娘や夫の写真が飾られたり、自身で作成した手芸物を置いたりと思いつきの工夫がなされた空間となっている。		